



兵庫県香美町

# プレスリリース



令和3年12月6日発信

マスコミ関係各位

情報発信元・取材等のお問い合わせ先

かみ  
**香美町役場神戸営業所** 担当：まつい のりよし

神戸市中央区下山手通 5-1-1 興栄ビル 501号

tel/fax : 078-599-5179 mobile : 090-5962-2967

e-mail : info@kami-kobe.jp

伝統の「味」守ります！

撮りにおいでよ 香美町



香美町役場観光商工課



## むらおか伝統のやさしい味「矢田川みそ」

### 農地の再生、味噌の復活からはじまる物語



【兵庫県香美町】のPR業務をしています、香美町役場観光商工課 神戸営業所の マツイ と申します。

兵庫県とは言いましても、**神戸市から2番目に遠い位置**にあります、**県北部の日本海に面した香美町（かみちょう）**。香美町の山あい「村岡区」の「道の駅 あゆの里 矢田川」のすぐ南にあります「**村岡アグリファーム株式会社**」と「**むらおか夢アグリ株式会社**」の取り組みについてご紹介します。

京都市内中心部から山口県下関市までを結びます「**ルートナイン（国道9号）**」は、旧山陰道に沿った大動脈です。これからの季節、悩まされるのは「**雪**」。特に、村岡区日影から黒田にかけての「**笠波峠**」は、**交通の難所**となっています。融雪装置が設置されていますが、毎年のように大型トレーラーなどが峠の途中で立ち往生、スリップして道を塞ぐ事故が発生し、通勤・通学など生活に大きな支障が出ます。このような事故を防ぐため、**トンネル掘削によるバイパス工事**が国土交通省により実施されています。そこで発生するのが「**残土処理**」。安全性の問題など「**処分**」先について全国各地の困りごととなっていますが、これを**農地再生に利用**し、その農地では**伝統の味噌が蘇**ります。

「ひと」や農業特集、みそ特集などございましたら、取材実施につきましてご検討いただきますようよろしくお願いいたします。（**みそ仕込風景**などもご取材いただけます。）

なお、実際に取材にお越しいただける場合には、より詳細な情報提供、行程調整、撮影アテンドなど地元調整を含めた最大限のご協力をさせていただきますので、何なりと **香美町役場神戸営業所 松井** までお声かけください。

詳しくは裏面をご覧ください

## ■ 「矢田川みそ」の歴史

日本の伝統的発酵調味料である「味噌」。かつては、伝統的な家庭の、そして地域の味がありました。村岡区の道の駅などでお土産として好評の「**矢田川みそ**」もまた、「**米地（めじ）みそ**」「**みずうま味噌**」などと並ぶ香美町を代表する美味しい味噌の一つです。

「矢田川みそ」は、平成11年に地元の女性グループが、名産品を作ろうと、県内産大豆、地元産こうじなど、素材を吟味し手作りでした味噌で、その味のまろやかさから、多くの人に愛されていましたが、生産に携わるメンバーの高齢化などにより、平成28年に惜しまれながらも**製造中止**となりました。

そんななか、地域住民グループ「大平（おおなる）会」が、元の生産メンバーの教えを請い、**復活**させることに成功しました。さらに、この味を安定して供給できる仕組み作りが必要であるとして、**農業法人の設立**へと動き出しました。



## ■ 「村岡アグリファーム」から「むらおか夢アグリ」へ

「**村岡アグリファーム株式会社**」は、公共工事で発生する残土、特に村岡区で喫緊の課題となっていました、国道9号笠波バイパス工事に伴う**トンネル掘削**により発生する残土を積極的に受け入れました。**田畑の耕作放棄地**などに持ち込まれたトンネル残土を投入し、整地、**農地として蘇らせた**のです。ちなみに、この会社の代表を務めているのが、みそ復活に関わった「大平会」代表の仲村正彦さんです。

そして、仲村さんは、**矢田川みその安定生産**と販売、また徐々に息を吹き返していく農地での農産物の生産・販売を担うべく、令和元年9月に設立されたのが、**100%子会社「むらおか夢アグリ株式会社」**であります。



## ■ 福祉職場からの転身

このような経緯で設立された「むらおか夢アグリ株式会社」ですが、その社長の座には、地元社会福祉法人から転身した、**今井裕子（ゆうこ）**さんが抜擢されました。「みそ作りと事務仕事」ということで村岡アグリファームに勤務することになった今井さんに、白羽の矢が立ったのでした。

「強いリーダーシップと行動力」を買われて、女性起業家、創業者となった今井さん。「まさか自分が」と戸惑いもあったようですが、今では、京阪神での商談会や販売会にも積極的に出展するなど、持ち前の明るさで会社・社員を引っ張っています。



## ■ 今後の夢アグリについて

むらおか夢アグリでは、ピーマン、キャベツと言った野菜はもとより、地域の伝統的作物である「**美大納言小豆**」、安納芋をはじめとした6品種の「**さつまいも**」などを生産しています。特にさつまいもは、そのまま販売するだけでなく、「やきいも」「干しいも」として販売、これらをさらに真空パックにして販売するなど、高付加価値化にもチャレンジしているほか、「**いもほり体験**」としても売り出し、地元だけでなく、休日には阪神間からのお客様もあるなど、プチ農業体験、**収穫体験**として好評を得ました。

これから迎える冬（12月から3月）は農閑期でもあり、前出の味噌づくりが中心ですが、地元産品使用の「かきもち」づくりを行うほか、「**雪中大根ほり体験**」も検討中だとか。

雪解け後の春には、どんな新しい農産品・加工品が生み出されるのか、そしてどんな体験プログラムが登場するのか、今後の取組みから目が離せません。



## ■ 矢田川みそについて

「矢田川みそ」の大きな特徴は、「手づくりこうじ」と「熟成」です。村岡は「**但馬杜氏**」で有名で、冬場は有名酒蔵の職人（杜氏・蔵人）として出稼ぎに行きました。そのため、高い製麹技術を活かしたこうじをふんだんに使用していること、また熟成段階では、地酒「**香住鶴**」の酒粕を使用して雑菌侵入を防いでいます。